

平成28年度

堺市幼児教育の推進体制構築事業 事業報告書



堺市教育委員会事務局 学校教育部 学校指導課

目 次

I 計画

1. 調査研究テーマ	1
2. 調査研究課題	1
3. 実施期間	1
4. 事業計画の概要及び具体的な調査研究計画	1
(1) 事業計画の概要	1
(2) 3年間の調査研究計画	7
(3) 1年目の具体的な調査研究計画	8
5. 実施体制について	9
(1) 具体的調査研究体制	9
ア. 堺市幼児教育堺スタンダードカリキュラム懇話会・ワーキンググループの設置	
イ. 自治体の概要	
ウ. 研究協力団体の概要	
(2) 調査研究体制の特色等	12
(3) 組織図及び体制図	12

II 1年目の実施状況

1. 幼小接続期の「育ちと学び」に責任をもち、対応する	13
(1) スタンダードカリキュラムの改編	13
(2) ワクワクひろばの実施	14
(3) 就学支援ノート『わくわくスタート堺っ子』の配付と出前講座の実施	17
2. 市内全体の幼児教育の質を向上させるために「研修を支援する仕組み」を整備する	22
(1) 幼児教育アドバイザー派遣	22
(2) 研修コーディネート	23
(3) 幼児教育サブアドバイザーの育成	29
(4) 保幼小合同研修会の開催	43
(5) 発達障害児等巡回相談指導の実施	45
(6) 近隣地方公共団体に向けた広報活動	45

III 成果と課題

1. 1年目の成果と課題	46
2. 課題を踏まえた改善点と次年度の計画	46
(1) 平成28年度における課題を踏まえた改善点	46
(2) 平成29年度の計画 ～市内幼児教育施設との連携・協働の土台づくり～	47

I 計画

1. 調査研究テーマ

幼稚園、保育所、認定こども園等を巡回して指導・助言を行う「幼児教育アドバイザー」の育成・配置に関する調査研究

2. 調査研究課題

幼児教育施設の種別にかかわらず、すべての幼児を対象とした幼児教育を振興していくことが自治体に求められている。

本調査研究の課題は、これまでの取組について検証し、本市の現状と課題を明らかにしたうえで、幼児教育の専門的知見を有する教育委員会として、『人』と『仕組み』を整え、以下の目的をもって『堺市版幼児教育推進体制』を構築することである。

○幼小接続期の「育ちと学び」に責任をもち、対応する

○市内全体の幼児教育の質を向上させるために、「研修を支援する仕組み」を整備する

なお、調査研究の推進にあたっては、「子ども・子育て支援制度」の趣旨であるいずれの施設においても子どもたちがより豊かに育っていける支援と、改訂される新幼稚園教育要領の内容を十分に反映させた幼児教育の提供となるように留意する。

3. 実施期間 委託契約日から 平成31年3月31日まで

4. 事業計画の概要及び具体的な調査研究計画

(1) 事業計画の概要

＜堺市の就学前教育について＞

- ・本市では、「子ども・子育て支援制度」の趣旨を踏まえ、認定こども園への移行が急速に進んでおり、民間施設の移行数は、全国の自治体でもトップレベルである。公立保育所19所についても平成29年度に幼保連携型認定こども園へ移行する予定であるが、この公立幼保連携型認定こども園に移行後、12園を残し民営化することになっている。
- ・幼稚園では、昭和40年代、第2次ベビーブーム、ニュータウンの開発により増加した幼児の教育を、市立幼稚園20園、私立幼稚園53園が支えてきた。その後少子化の進展が顕著になりだした平成7年度に市立幼稚園を20園から10園に統廃合した。また、平成17年の旧美原町との合併により加わった1園を含め、平成19年には、地域の理解を得たところから市立幼稚園11園を順次廃止することを決定し、その後1園を廃園とした。少子化の進展と長時間保育へのニーズが高まる中、年々園児数、学級数、職員数が減少し続けており、現在、市立幼稚園の幼児の割合は1割にも

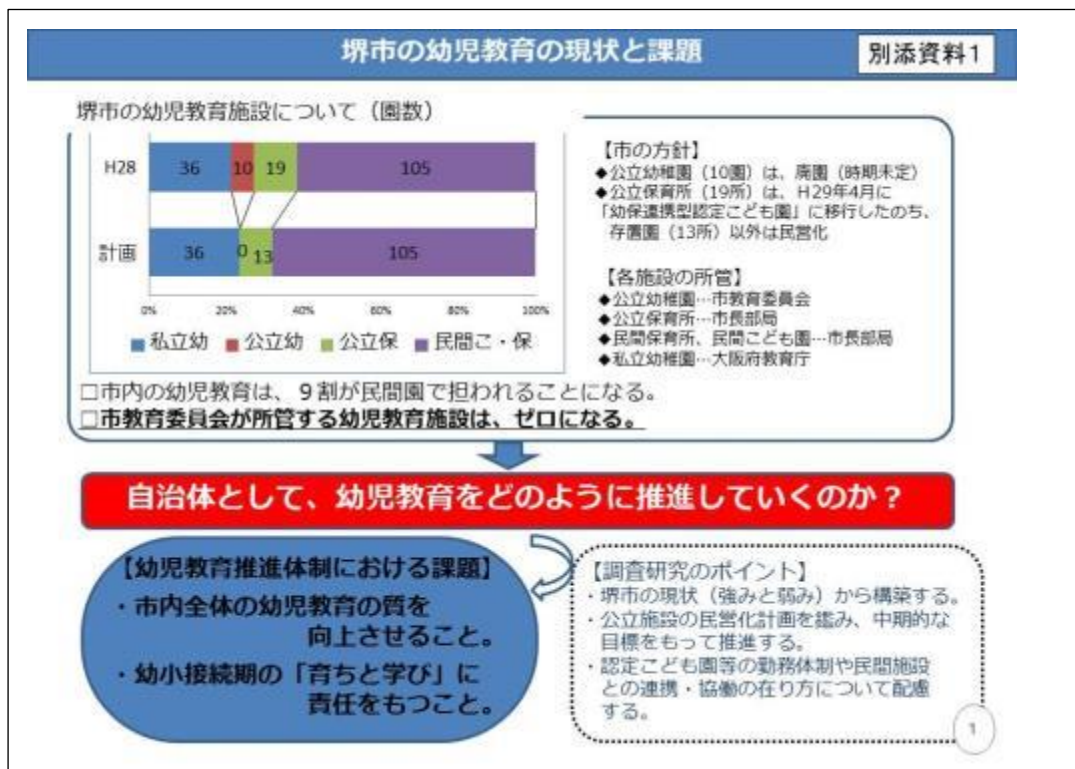
満たず、平成28年度には10園中6園が単学級になる予定であり、方針に沿って廃園に向けた取組を促進している。

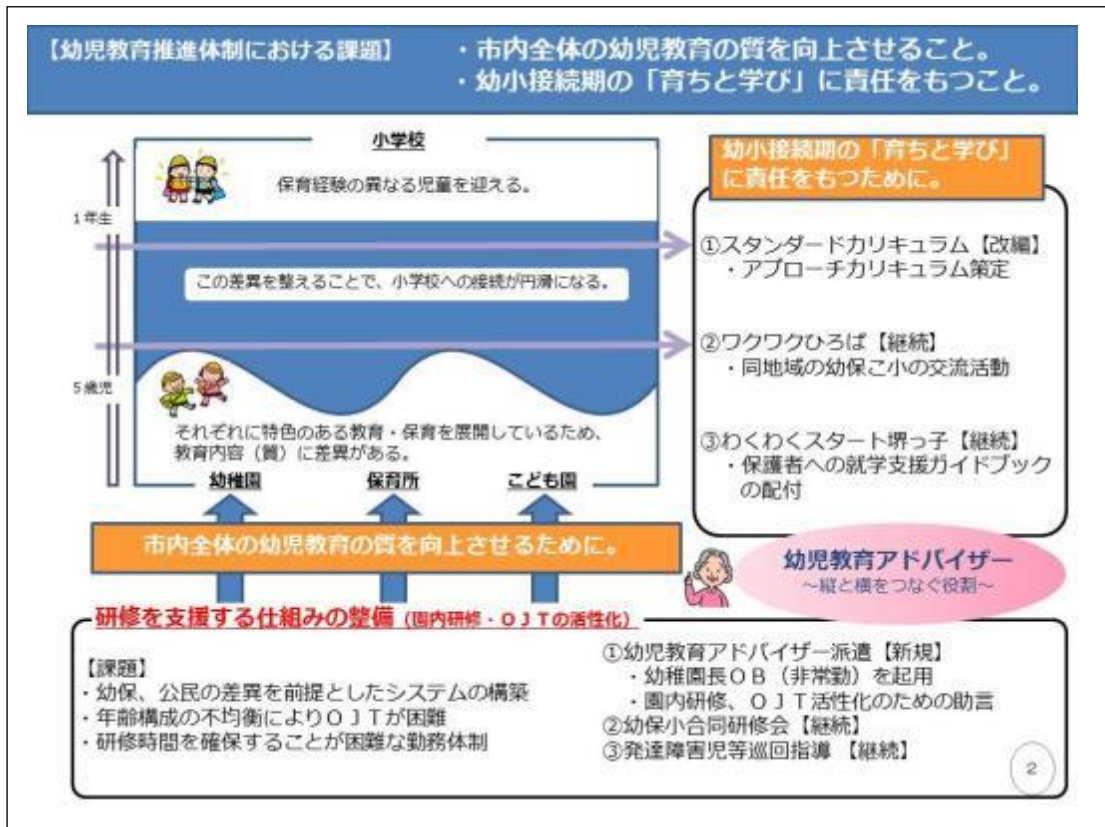
＜本市の課題＞

- 今後、市教委が所管する幼児教育施設は全廃する方向にある。市としては、これまでも公私校園種にかかわらず全ての幼児を対象とした幼児教育の振興を図る取り組みを進めてきたが、子ども・子育て支援制度の整備が進む中、現行の幼児教育・子育て支援の枠組みを見直し、新たな幼児教育の支援体制を構築する必要があると認識している。
- 学校教育に関する専門的知見を有する市教委として、市内の幼児教育施設で行われる幼児教育及び学校教育についての質を向上させるために、公私校園種を超えた市全体の幼児教育を推進するための「人」と「仕組み」を整えることが課題である。

＜着想に至った経緯＞

- 市立幼稚園の廃園を進めるなか、市立幼稚園で培ってきた公的な幼稚園教育を継承するすべを模索しているが、それには、「人」を介して継承していくしかない。市立幼稚園教育の実践経験者であり、園長として幼稚園教育の振興と人材育成に携わってきた退職園長を「幼児教育アドバイザー」として配置することにより、公教育として培ってきた幼稚園教育の理念と実践を広く市内の幼児教育施設や実践者に伝達していきたい。また、全廃までに市立幼稚園のミドルリーダーにあたる教員を「次世代の幼児教育アドバイザー」として育成し、活用を場を整備し、「所管する幼児教育施設を持たない市教委の幼児教育の推進体制」の一つのモデルケースとして研究を推進したいと考えた。





＜調査研究の目的＞

幼児教育施設の種別にかかわらず、すべての幼児を対象とした幼児教育を振興していくことが自治体に求められている。

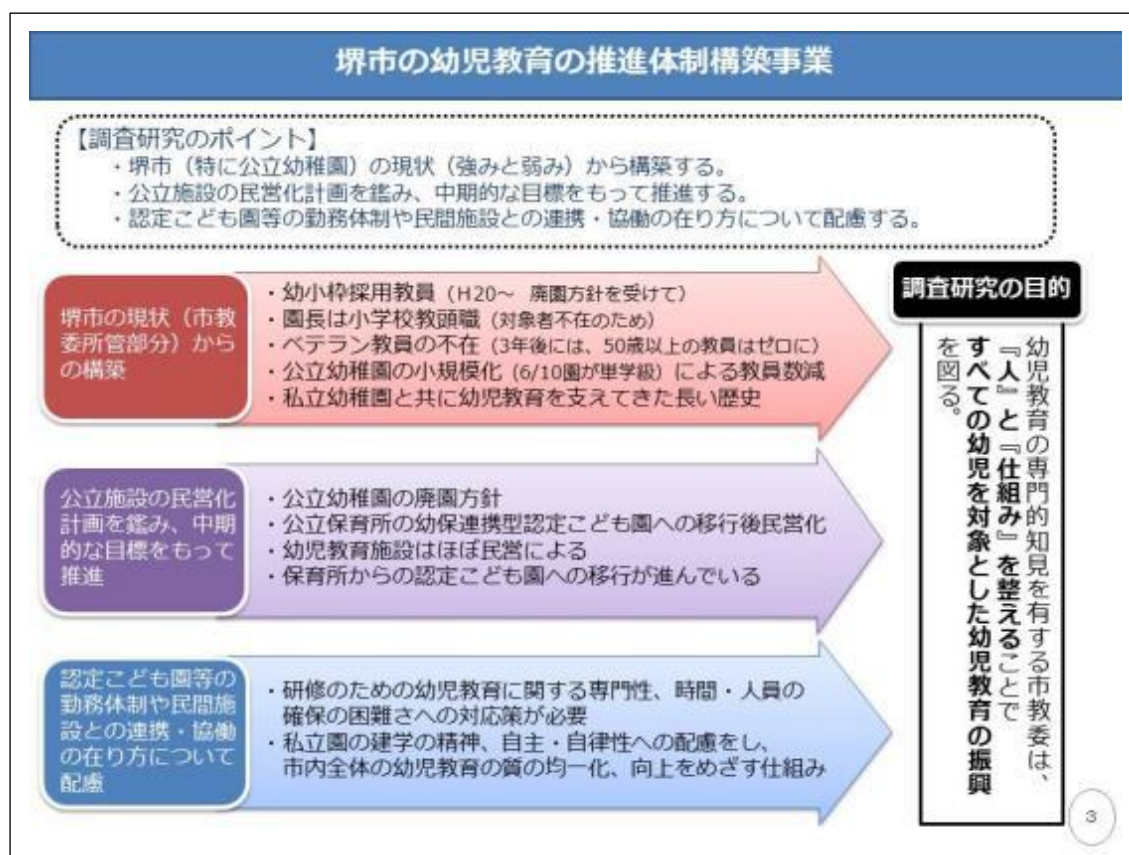
本調査研究の課題は、これまでの取組について検証し、本市の現状と課題を明らかにしたうえで、幼児教育の専門的知見を有する教育委員会として、『人』と『仕組み』を整え、以下の目的をもって『堺市版幼児教育推進体制』を構築することである。

- 幼小接続期の「育ちと学び」に責任をもち、対応する
- 市内全体の幼児教育の質を向上させるために、「研修を支援する仕組み」を整備する

＜調査研究のポイント＞

- 本市の現状から構築する
 - ・教員体制の強みと弱み
(幼小枠採用教員、小学校籍の管理職、ベテラン教員の不在、年齢の不均衡など)
 - ・市立幼稚園の小規模化
 - ・私立幼稚園とともに幼児教育を支えてきた長い歴史
- 公立施設の民営化を鑑み、中長期的な目標をもって推進する
 - ・市立幼稚園の廃園方針
 - ・市立保育所の幼保連携型認定こども園への移行（公立としての存置は12園のみ）
 - ・今後、幼児教育施設はほぼ民営による
 - ・民間保育園からの認定こども園への移行が進んでいること

- 認定こども園等の勤務体制や民間施設との連携・協働の在り方について配慮する
 - ・研修のための幼児教育に関する専門性、時間・人員の確保の困難さへの対応策が必要
 - ・民間園の建学の精神、自主・自律性に配慮をし、市内全体の幼児教育の質の均一化、向上をめざす仕組みづくり



<実施項目>

A. 幼小接続期の「育ちと学び」に責任をもち、対応する

①スタンダードカリキュラムの改訂

平成23年度に「コミュニケーション力」「連携」をキーワードに「堺幼児教育スタンダードカリキュラム」を作成した。今回は、幼稚園教育要領の改訂に対応し、堺市全体の幼児教育の内容の充実と小学校教育の円滑な接続の推進力となる視点を定めた内容に改訂する。

②ワクワクひろば【継続】

小学校に対する興味・関心そして、期待感がもてるよう、校区内の幼児教育施設に在籍する就学前5歳児と小学生が小学校施設を活用した交流活動を行う。各小学校主体で実施。授業参観、給食体験、学校行事への参加など。

③就学支援ノート『わくわくスタート堺っ子』の配付【継続】

就学1年前の子どもとその保護者を対象に就学支援ノートを配付。入学までに身につけておきたい力や小学校での学習、生活などに関する情報、各種相談窓口の紹介などを提供している。

『わくわくスタート堺っ子』を活用した保護者または職員向け研修へアドバイザーを派遣する。（対象は公立幼稚園・公立こども園・民間こども園・私立幼稚園・公立保育所・民間保育園、希望制）

B. 市内全体の幼児教育の質を向上させるために、「研修を支援する仕組み」を整備する

①幼児教育アドバイザー派遣【新規】

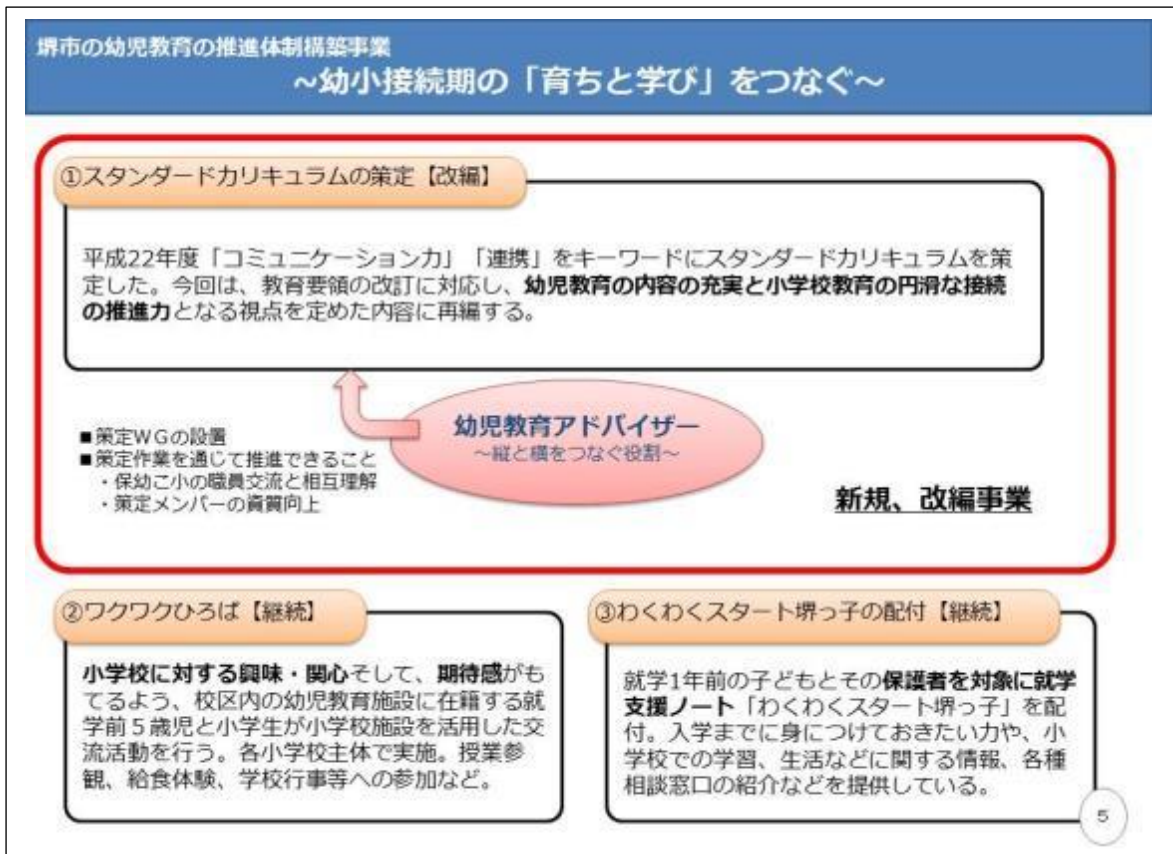
- ・経験豊かな退職園長を再任用非常勤職員として任用
- ・園内研修巡回指導（対象は公立幼稚園・公立こども園、希望制。専門家派遣も含む）
- ・幼児教育に関する研修の開催
- ・研修コーディネート（対象は公立幼稚園・公立こども園・私立幼稚園、希望制。専門家派遣も含む）
- ・幼児教育サブアドバイザー育成（公立幼稚園・こども園より各1名選出し育成する）
※研究に係る資料、教材、報告等の作成の経費として、各園に消耗品費を配当する
- ・その他、幼児教育の充実に向けたニーズ調査等を行い、実施事業を具体化していく

②幼保小合同研修【継続】

幼保小連携に関連する講演とグループ（地域ごと）討議

③発達障害児等巡回相談指導【継続】

配慮の必要な園児への指導について、担当指導主事または幼児教育アドバイザーが専門家とともに巡回し教員への助言を行う。（対象は公立幼稚園・公立こども園・私立幼稚園、希望制。年3回/園）



市内全体の幼児教育の質を向上させるために・・・

【課題①】
幼保、公民の差異を前提としたシステムの構築

【課題②】
年齢構成の不均衡により
OJTが困難

【課題③】
研修時間を確保することが
困難な勤務体制

① 幼児教育アドバイザー派遣【新規】

○ 園内研修巡回指導 ○ 研修会講師 ○ 研修コーディネート など

◆ 私立幼稚園・民間保育園・こども園の「建学の精神」「自主・自律性」への配慮
◆ 市・教委への要望・期待
◆ 各連盟との連携・協力

◆ 特に公立幼稚園では、年齢の不均衡など人的な課題が山積
◆ ミドルリーダーの育成が急務
※ 将来を見据え、幼児教育アドバイザーとして育成する

◆ 園内研修の活性化
◆ 指導案、教材案の提示
◆ 出前研修（専門家派遣含む）

② 幼保小合同研修【継続】

年2回実施（小学校教員の参加は1回のみ）
保幼小連携に関わる講演とグループ討議
（地域ごと）

③ 発達障害児等巡回相談【継続】

配慮が必要な園児への指導について、専門家と共に巡回し助言を行う。
（公私立幼稚園対象。希望制。年3回/園）

6

○ 近隣の地方公共団体に向けた広報活動を行う

幼児教育アドバイザーを活用した幼児教育の推進体制構築事業に係る1年間の取組等について報告し、参加者からの意見やアドバイス等をいただき、次年度以降の計画にいかす。

○ 文部科学省への報告

成果物（冊子等）等の報告書を提出する。

< 調査研究実行委員会の設置 >

本調査研究の推進にあたり、学識者、幼稚園・保育所・こども園関係者、行政職等で構成する「調査研究実行委員会」を設置する。「調査研究実行委員会」は、研究推進体制や研究計画の検討、実施状況の確認や指導・助言等を行う。事業内容により、下位組織としてワーキンググループを設置する。

(2) 3年間の調査研究計画

【1年目】 ～調査、準備、モデル実施の期間～

- ◆調査研究実行委員会の設置
 - ・全体計画等の検討
- ◆スタンダードカリキュラム改訂に向けた準備
 - ・ワーキンググループの設置
 - ・保幼小関係者（管理職、教諭、保育士等）へのアンケートによる調査
 - ・策定作業の開始
- ◆幼児教育アドバイザーの派遣
（対象は公立幼稚園・公立こども園、希望制。専門家派遣も含む）
 - ・幼児教育アドバイザーの資質向上（研修） ※別添資料2 研修計画（案）
 - ・幼児教育サブアドバイザー（公立幼稚園・こども園より各1名選出し育成）の育成
 - ・園内研修指導・助言
 - ・先進的な取組（他自治体）の視察
- ◆研修を支援する仕組みについての構想
 - ・市内幼児教育施設へのアンケート調査
- ◆公立保育所を対象とした取組
 - ・保幼小合同研修会開催（専門家等による講演、グループ討議等）
 - ・「区別事例検討会（市長部局開催、区内公民保育所等の参加）」に幼児教育アドバイザー、サブアドバイザーが参加し、幼児教育施設との情報交換、連携体制を推進。
 - ・「ワクワクひろば（校区内の公民幼児教育施設小学校との交流事業）」の実施。
 - ・『わくわくスタート堺っ子（小学校入学のためのガイドブック）』を活用した保護者または職員向け講演。
- ◆近隣の地方公共団体に向けた広報活動
 - ・幼児教育アドバイザーを活用した幼児教育の推進体制構築事業に係る1年間の取組等について報告する（対象：大阪府下市町村教育委員会等）

【2年目】 ～市内幼児教育施設との連携・協働の土台づくり～

- ◆スタンダードカリキュラムの改訂
 - ・公私幼児教育施設教諭等がかかわる体制で改訂作業を進める
 - ・小学校への発信
- ◆新幼稚園教育要領の普及と啓発のための研修会を開催
 - ・公私幼児教育施設の職員を対象にした研修会を開催し、新幼稚園教育要領の普及・啓発を図り、幼児教育の質の維持・向上を推進する
- ◆幼児教育アドバイザー派遣の充実（対象園種の拡大）
 - ・民間施設との連携と調整、出前講座等の実施
- ◆研修を支援する仕組みのモデル実施
 - ・専門家の派遣等
 - ・研修用DVDの貸出及び幼児教育アドバイザー、指導主事の派遣
- ◆「幼児教育アドバイザー等連絡会議（仮称）」の設置準備

- ◆実態調査による事業検証
 - ・幼児期教育の質の維持・向上に関する意識調査（教員等）を実施
 - ・幼児期の言語能力に関する実態調査（予備調査）の実施
- ◆近隣の地方公共団体に向けた広報活動
 - ・取組の成果について発信する（特に新スタンダードカリキュラムやその改訂作業に係る公民種別を超えた連携について 対象：大阪府下市長村教育委員会等）
- ◆文部科学省への報告
 - ・成果物（冊子等）の報告書を提出する

【3年目】 ～取組の検証と修正、次期計画の構想～

- ◆スタンダードカリキュラムの周知・活用促進
 - ・スタンダードカリキュラム説明会の開催
 - ・具体事例、活動モデル案、教材開発等
- ◆幼児教育アドバイザー派遣体制の充実
 - ・「幼児教育アドバイザー等連絡会議」の開催
 - ・幼児教育アドバイザーの確保・派遣体制の構築
 - ・地域内（校区等）研修の活性化コーディネート
- ◆実態調査により事業検証
 - ・幼児教育の質の維持・向上に関する意識調査（教員等）を実施
 - ・幼児期の言語能力に関する実態調査の実施
- ◆近隣自治体への発信
 - ・取組の成果について発信する
- ◆文部科学省への報告
 - ・成果物（冊子等）の報告書を提出する

(3) 1年目の具体的な調査研究計画

- 幼児教育アドバイザー 1名配置
 - ・平成27年度末退職予定の幼稚園長を、再任用非常勤職員として任用の予定
 - ・勤務体制は、週30時間、週4日勤務
- 具体的な研究計画の概要
 - ◆調査研究実行委員会の設置
 - ・全体計画等の検討
 - ◆スタンダードカリキュラム改訂に向けた準備
 - ・ワーキンググループの設置
 - ・保幼小関係者（管理職、教諭、保育士等）へのアンケートによる調査
 - ・改訂作業の開始

◆幼児教育アドバイザーの派遣

(対象は公立幼稚園・公立こども園、希望制。専門家派遣も含む)

- ・幼児教育アドバイザーの資質向上(研修)
- ・幼児教育サブアドバイザーの育成(市立幼稚園対象)
- ・園内研修指導・助言
- ・先進的な取組(他自治体)の視察

◆研修を支援する仕組みについての構想

- ・市内幼児教育施設へのアンケート調査

5. 実施体制について

(1) 具体的調査研究体制

ア. 堺市幼児教育堺スタンダードカリキュラム懇話会・ワーキンググループの設置

【堺市幼児教育堺スタンダードカリキュラム懇話会】

実行委員氏名	所属機関 所属・職名	具体的な役割分担	従事期間
大方 美香	大阪総合保育大学 教授	座長 全体指導、助言	委託契約日から 平成31年3月31日
卜田 真一郎	常磐会短期大学 教授	全体指導、助言	委託契約日から 平成31年3月31日
中村 妙子	堺私立幼稚園連合 会副会長	幼保小連携の推進	委託契約日から 平成31年3月31日
辻 美代子	NPO さかい民間教 育保育施設連盟役 員(研修担当)	幼保小連携の推進	委託契約日から 平成31年3月31日

【幼児教育堺スタンダードカリキュラムワーキンググループ】

所属	氏名	園名・役職等
市内 幼児教育施設	中山 史子	堺市立第一幼稚園 教諭
	渡邊 清子	堺市立三国丘幼稚園 教諭
	関藤 里奈	堺市立東陶器幼稚園 教諭

	日田 香織	堺市立白鷺幼稚園 教諭
	星川 眞有美	堺市立登美丘東幼稚園 教諭
	邊見 眞紀	堺市立津久野幼稚園 教諭
	清水 友紀	堺市立認定こども園百舌鳥幼稚園 教諭
	木村 恵子	堺市立北八下幼稚園 教諭
	宗村 紀子	堺市立北八下幼稚園 教諭
	作田 佳子	堺市立みはら大地幼稚園 教諭
	高田 昌代	幼保連携型認定こども園 いずみがおか幼稚園 教頭
	佐々木 智美	金岡二葉幼稚園 教諭
	桑野 優美	東百舌鳥幼稚園 副指導教諭
	田川 勇貴	光明幼稚園 主任
	永谷 なみ	幼保連携型認定こども園竹宝保育園 保育教諭
	玉嶋 範子	登美丘西こども園 保育教諭
	富田 美也子	幼保連携型認定こども園東百舌鳥保育園 保育教諭
	佐々木 恵	幼保連携型認定こども園わんぱく保育園 保育教諭
	三枝 美幸	幼保連携型認定こども園五ヶ荘保育園 保育教諭
子ども青少年局 子育て支援部	徳山 浩美	子ども青少年局 子育て支援部 保育総括参事
	三宅 由美子	子ども青少年局 子育て支援部 幼保推進課参事
	大谷 純子	堺市立上神谷保育所 主任
	吉村 匡人	堺市立英彰保育所 主任
	山口 陽子	堺市立美原きた保育所 主任
教育委員会事務局 学校管理部	名和 琢巳	教育委員会事務局 学校管理部 教育環境整備推進室 主幹

教育委員会事務局 学校教育部	外山 善正	教育委員会事務局 学校教育部 部長
	井阪 茂雄	教育委員会事務局 学校教育部 人権教育課 指導主事（人権教育・生活科担当）
	澤 ひとみ	教育委員会事務局 学校教育部 学校指導課 総括指導主事
	稲葉 淳郎	教育委員会事務局 学校教育部 学校指導課 指導主事（小学校担当）
	藤澤 悦子	教育委員会事務局 学校教育部 学校指導課 幼児教育アドバイザー
	今永 和子	教育委員会事務局 学校教育部 学校指導課 保育士

イ. 自治体の概要

①規模（平成28年4月現在）																
大阪府堺市										839,891人						
②指定する自治体における全幼稚園数、認定こども園数、小学校数、保育所数（平成28年4月1日現在）※幼稚園型認定こども園については幼稚園の、保育所型認定こども園については保育所のそれぞれ内数で記入。																
幼稚園			うち、幼稚園型 認定こども園			幼保連携型 認定こども園			保育所		うち、 保育所型 認定 こども園		地方裁量型 認定 こども園		小学 校	
45 園			6 園			76 園			41 か所		3 園		0 園		93 校	
国	公	私	国	公	私	国	公	私	公	私	公	私	公	私	公	私
0	9	36		1	5			76	20	21		3				
園	園	園	園	園	園	園	園	園	か所	か所	園	園	園	園		

ウ. 研究協力団体の概要

	団体名等	団体等の活動概要
1	堺市私立幼稚園連合会	市内における私立幼稚園の密接な連携をはかり、幼稚園教育の振興と充実を期することを目的に活動
2	NPO さかい 民間教育保育施設連盟	会員（社会福祉法人立の認可保育園）の経営基盤強化のための研究と連携のための活動

(2) 調査研究体制の特色等

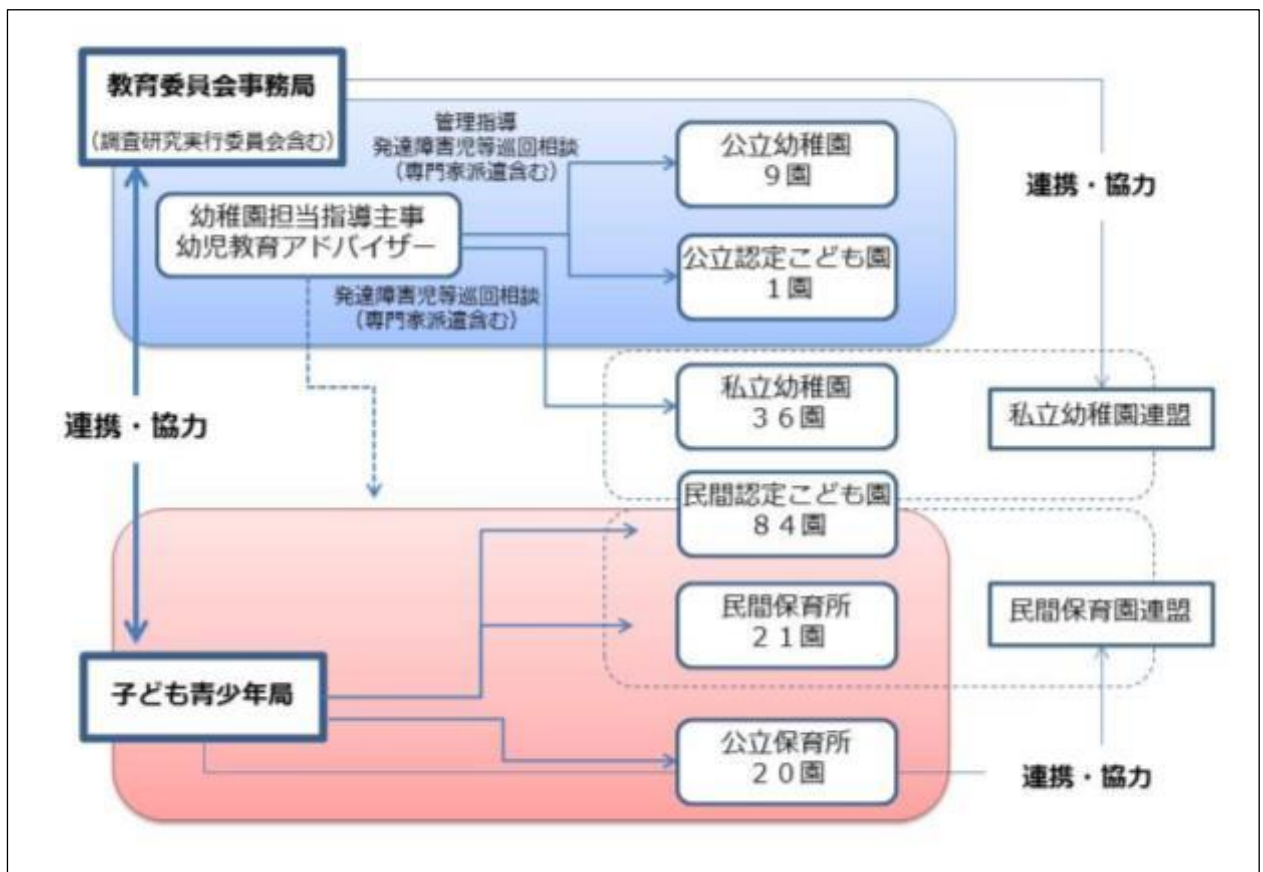
○調査研究・・・調査研究実行委員会により、企画・立案・計画を推進する。

その際、各連携機関との調整等については、調査研究実行委員会及び事務局である市教育委員会が積極的に推進する。

(連携機関) 市立幼稚園・市立保育所・私立幼稚園連盟・民間保育園連盟
子ども青少年局(子育て支援部)

○事務処理・会計処理等・・・一括して、市教育委員会事務局にて執行する。

(3) 組織図及び体制図



Ⅱ 1年目の実施状況

1. 幼小接続期の「育ちと学び」に責任をもち、対応する

(1) スタンダードカリキュラムの改訂

①取組の概要

平成23年度に「コミュニケーション力」「連携」をキーワードに「堺幼児教育スタンダードカリキュラム」を作成し配付したが、今回は、幼稚園教育要領の改訂に対応し、堺市全体の幼児教育の内容の充実と小学校教育への円滑な接続の推進力となる視点を定めた内容への改訂に取り掛かった。

②実施日時

日時	会議名	内容
11月24日	第1回 堺市幼児教育堺スタンダードカリキュラム懇話会	<ul style="list-style-type: none">本市の幼児教育に関する現状と課題について堺市幼児教育堺スタンダードカリキュラムの改訂について
12月5日	堺市幼児教育堺スタンダードカリキュラムに関する指導助言(第1回)	指導助言：白梅学園大学 無藤 隆 教授 <ul style="list-style-type: none">幼児期、接続期に大切にしたい能力・資質公民種別を超えて共に改訂作業を進めていくことの重要性と効果 など
2月23日	第2回 堺市幼児教育堺スタンダードカリキュラム懇話会	<ul style="list-style-type: none">幼児教育堺スタンダードカリキュラムの骨子について幼児教育堺スタンダードカリキュラムに関する検討ワーキンググループ設置要領について
3月1日	第1回 幼児教育堺スタンダードカリキュラムワーキンググループ会議	<ul style="list-style-type: none">幼児教育堺スタンダードカリキュラムの骨子について幼児教育堺スタンダードカリキュラムに関する検討ワーキンググループ設置要領について
3月9日	堺市幼児教育堺スタンダードカリキュラムに関する指導助言(第2回)	指導助言：白梅学園大学 無藤 隆 教授

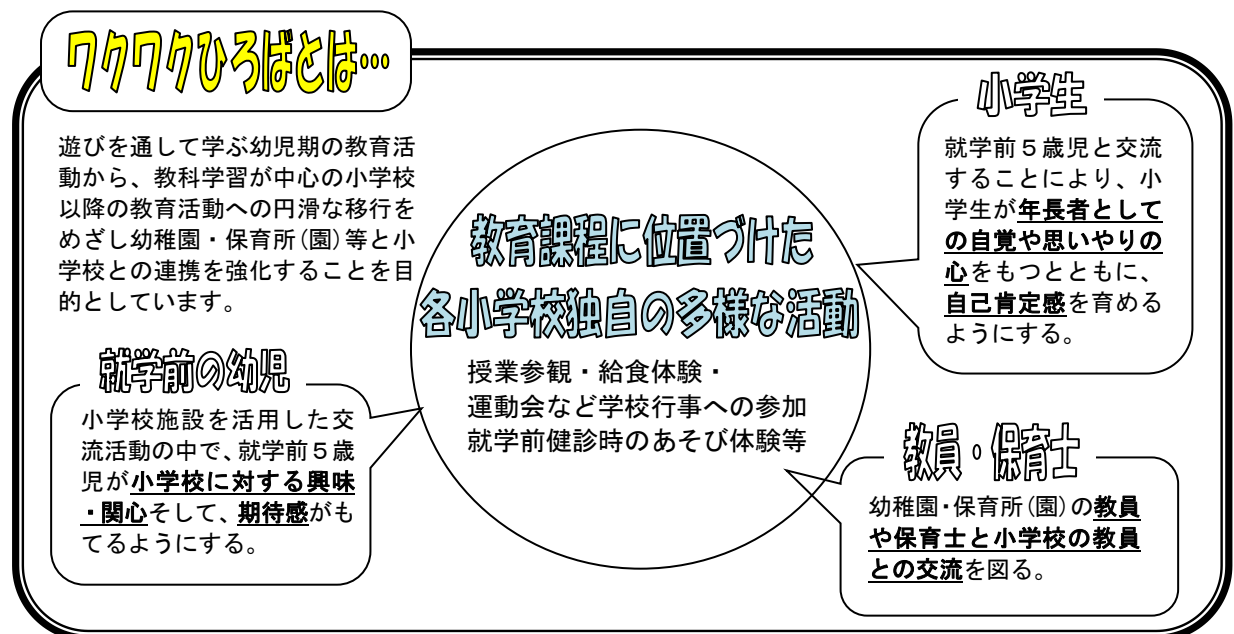
(2) ワクワクひろばの実施

①取組の概要

- ◆対象校 市内全小学校（93校）
- ◆目的 遊びを通して学ぶ幼児期の教育活動から、教科学習が中心の小学校以降の教育活動への円滑な移行をめざし幼稚園・認定こども園・保育所（園）等と小学校との連携を強化することを目的とする。
 - 小学校施設を活用した交流活動の中で、就学前5歳児が小学校に対する興味・関心、そして期待感がもてるようにする。
 - 就学前5歳児と交流することにより、小学生が年長者としての自覚や思いやりの心をもつとともに、自己肯定感を育むことができるようにする。
 - 幼稚園・認定こども園・保育所（園）の教員や保育士と小学校教員との交流を図る。
- ◆対象 入学予定の5歳児や校区内の幼児教育施設に在籍する就学前5歳児。
- ◆周知方法 校区内の5歳児の保護者に参加を呼びかけるため回覧板・ホームページ・広報などを利用して周知する。

②実施日時・内容

- ◆全小学校で実施予定（93校、のべ230回実施予定）
- ◆参加する幼児教育施設の種別ごとののべ参加回数
（公立保育所33回、民間保育園16回、民間認定こども園88回、公立幼稚園45回、私立幼稚園38回）



実施計画の作成

1) 実態を把握し、目標を設定する

- ①近隣保育所・幼稚園を知り、交流のもち方などについて話し合う機会をもつ
 - ・各施設の連携担当者、連絡先の確認
- ②子どもの実態を把握し、計画を立てる
 - ・前年度の反省・課題を確認

実施校より

- 交流することで、近隣の幼稚園・保育所を知る機会になった。（施設名・住所・当該校就学予定者数）
- 教員が近隣保育所・幼稚園を知ること、児童（特に1年生）はとても喜び、親近感が高まった。
- 交流前に対象園・所から幼児（次年度入学予定者）の実態について聞くことができ、交流内容の参考にすることができた。
- 1年生担任から児童の課題を聞いておくことで、就学前に身につけておいてほしい力や、気になる子どもの様子などを幼稚園・保育所に伝えることができた。
- 校内組織（構成メンバー等）を決めておくことで、他施設との連絡・校内での周知などがスムーズにできた。
- 管理職間での連絡体制ができていたので、行事の調整等進めやすかった。
- 例年、近隣幼稚園・保育所と交流をしているので、3者で進める体制ができています。（連携協力校のグループ化）
- 打合せ会議の持ち方（回数・場所等）について、対象園・所と確認しておいたので、事前の準備がスムーズだった。

2) 年間計画の作成

- ①年間目標を立てる
 - ・学校行事との調整
- ②交流時期内容について決定
 - ・継続的な交流活動となるような工夫
- ③予算計画を立てる

実施校より

- 年間の目標（幼児・児童・教員）をもつことで、教員の意識が高まった。
- 生活科・総合的な学習などの教科の学習計画と連携させることで、児童に負担なく、充実した内容で実施することができた。

交流活動の実施

1) 交流活動の実施

- ①具体的なねらいや内容の設定
- ②実施前の周知
 - ・当該学年以外の学年教員にも周知し、学校全体で交流活動を支援する姿勢をとる
 - ・校区内5歳児保護者への参加呼びかける（校区内回覧板・ホームページ・校報など）
 - ・計画書は、実施2週間前までに提出しておく
- ③準備等
 - ・必要備品の準備、消耗品の購入準備については、数量の確認等も含め早めに整える

実施校より

- 幼稚園や保育所と事前打合せを綿密にし、一緒に活動計画を立てたので、互いの発達の理解・配慮（言語理解や手指の巧緻性など、子どもの活動をイメージすること、子どもの目線から考えること）ができ、幼児・児童にとって無理のない充実した活動ができた。
- 活動内容や配慮事項、活動のねらい等について具体的に話し合い、相互の教育内容や指導方法、子ども観について相互理解を深めることができた。
- 職員会議・朝礼等で校内に周知しておくことで、協力体制ができ、活動しやすかった。
- 就学前健診時に、入学までの交流活動等の案内をした。（授業参観・体験入学・その他）

交流活動実施後

1) 交流活動実施後

- ①実施後のふりかえり
 - ・活動終了時に幼児・児童と共にふりかえりの機会をもつ
 - ・校内、園（所）内において、個別にまた合同で事後の会議をもち、反省と課題を明確にすることが望ましい
- ②実施後の周知
 - ・当該学年以外の学年教員にも周知し、学校全体で交流活動の成果を共有する
 - ・小学校保護者、校区内5歳児保護者、地域等に周知することで、取組の成果について積極的に情報発信する（校区内回覧板・ホームページ・校報など）
- ③次回、次年度への引継ぎ
 - ・反省や課題を明確にし、次回の交流活動に反映させる
 - ・アンケートなど、保護者の感想を聞き、次回の交流活動に反映させる

実施校より

- 合同での会議が困難だったので、アンケートで情報交換等を行った。
- 年度末には連携担当者だけでなく、学校全体、連携施設と合同等で会議をもち、様々な立場からの意見を聞くことができた。

(3) 就学支援ノート『わくわくスタート堺っ子』の配付と出前講座の実施

①取組の概要

就学1年前の子どもとその保護者を対象に配付している。入学までに身につけておきたい力や小学校での学習、生活などに関する情報、各種相談窓口の紹介などを提供する冊子。

本冊子を活用した「出前講座」を7月より開始。保護者または職員向け研修として行うもので、幼児教育アドバイザーが担当した。

この取組は、民間園を利用している保護者に直接啓発できる機会として、2年目以降も積極的に発信していきたく考えている。近年、就学前の教育の重要性が注目され、同時に家庭との連携や家庭の教育力の向上などに対応した取組の必要性和工夫が取り上げられているなか、本市でも、「家での7つのやくそく」をつくり、様々な形で家庭へ啓発している。この取組も、「出前講座」とともに民間園にも広げていくよい機会だと考えている。「出前講座」の中でも「生活習慣の確立」や「家庭での教育の重要性」についてふれ、「家での7つのやくそく」リーフレットを配付した。



保護者のみなさまへ

この冊子は、来春から始まるお子様の小学校生活が安心してスタートでき、学校生活や学習活動がスムーズで充実したものとなることを願って作成しました。

小学校への入学は夢や希望に満ちた新しいステップです。

本冊子は、これまでにご家庭において育ててきた力を一層伸ばし、より充実した毎日が過ごせるよう、小学校に入るまでにご家庭で身につけておきたいことを紹介しています。また、小学校の学校生活や学習内容、相談窓口や情報もあわせて掲載しています。

堺市の子どもたちが小学校入学をわくわくする気持ちでむかえ、のびのびと個性が発揮できるような学校生活が送れることを願っています。



堺市では、全国学力・学習状況調査や堺市「子どもがのびる」学びの診断の分析結果から、教科学力の正答率と関係が深いと考えられる7つの項目について、学校と家庭が連携して取組を進めています。

②実施日時・園名等

	日 時	園 名	参加者
1	7月19日	幼保連携型認定こども園 わんぱく保育園	保護者 20 職員 10
2	7月21日	こども園くさべ	職員 6
3	7月25日	幼保連携型認定こども園 竹宝保育園	保護者 15 職員 5
4	8月24日	幼保連携型認定こども園 ベルキンダー安井	職員 15
5	8月27日	初芝こども園	保護者 30
6	9月3日	幼保連携型認定こども園 ろばのこ保育園	職員 35
7	9月6日	はつしば学園幼稚園	職員 17
8	9月16日	幼保連携型認定こども園 竹宝保育園	保護者 15 職員 5
9	11月1日	幼保連携型認定こども園 わんぱく保育園	保護者 21 職員 5
10	11月4日	幼保連携型認定こども園 わんぱく保育園	保護者 22 職員 5
11	11月5日	市立若松台保育所	保護者 20 職員 4
12	11月12日	市立宮山台保育所	保護者 27 職員 3
13	11月26日	市立東陶器保育所	保護者 20 職員 5
14	12月1日	認定こども園 諏訪森幼稚園	保護者 13 職員 2
15	2月2日	市立上神谷保育所	保護者 8 職員 6
16	2月4日	幼保連携型認定こども園 松の実保育所	保護者 20 職員 16

③出前講座の様子

『わくわくスタート堺っ子～』内容

もくじ	
■ 入学までの流れ	
入学までの流れ	4
記録しておきましょう	5
① 小学校に入るまでに	
大切にしたいアツのポイント	8～11
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 生活のリズムをつくりましょう ◎ 食生活には気を付けましょう ◎ 友達と遊ぶようにしましょう ◎ 本に親しみましょう ◎ 朝ごはんを食べましょう ◎ やさしい気持ちでいきましょう ◎ 動かしやすい言葉を使いましょう 	
② 小学校に入ると	
目次	12～13
目1 1年生の学校生活	14～18
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 1年生の学校行事 ◎ 1年生の生活 ◎ 1年生の授業 ◎ 1年生の学校生活 	
目2 小学校に入った後	19～21
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 「まだアツのやうそく」 ◎ 家庭の役割 ◎ 学校に慣らすために 	
目3 特別支援教育とは	22～23
③ お知らせ	
目4 相談窓口	24～25
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 子育て相談 ◎ 教育相談 ◎ 就学相談 	
目5 情報	26～28
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 入学まで ◎ 就学相談制度 ◎ 幼稚園の子どもの生活 ◎ 市立図書館 	
読本や本の紹介	29～30
えんぴつのもちかた・おはしのもちかた	31～32
わくわくチャレンジ	33～34



出前講座内容

入学までの流れや心構えについて、分かりやすく説明する

第1子の入学を控えた保護者にとっては、特にこの1年の流れについて丁寧に伝える

入学するにあたっては、就学相談・就学時健康診断・説明会などの時期、準備物だけでなく、親子で心の準備ができるように生活の中で大切にしておきたいことを伝えた

出前講座内容

小学校に入るまでに身につけておきたい7つのポイントを紹介する

①生活のリズムをつくりましょう

- 早寝、早起きなどの安定した生活リズムは元気のもとになり、学びの基礎となる
- テレビ、ゲームは1時間までにする
- 睡眠時間は10時間必要である
- 睡眠不足になると、学習意欲が低下し情緒不安定にもつながる

②朝ごはんを食べましょう

- ブドウ糖を補給することは、集中力や記憶力にも影響する

③自分のことは自分でしましょう

- 学校の準備が自分でできるように、今から、自分の持ち物に責任をもつ習慣を身に付けていく

④やさしい心もちましょう

- 「ほめる」ことは大事。自尊心が高まる
- 「早くしなさい」よりも時計で具体的に示す

⑤友だちと遊びましょう

- 就学前の遊びと小学校の学習等のつながりを説明する

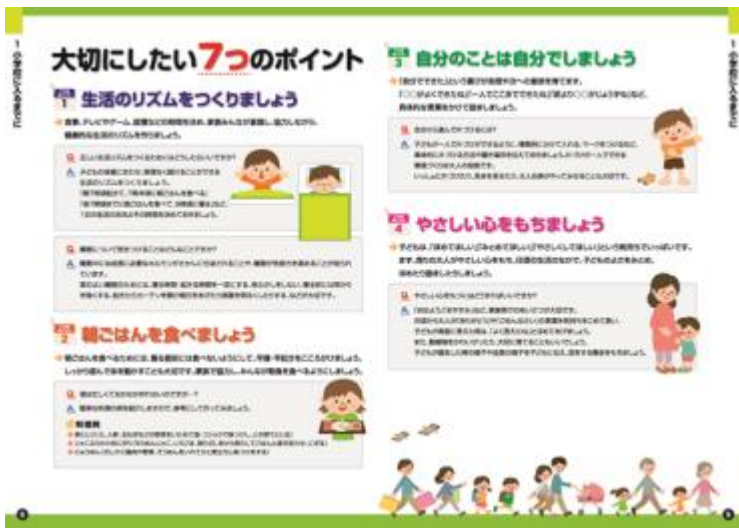
例：しりとり→語彙数を増やす

⑥話しましょう。聞きましょう

- 子どもが自分の思いを受け止めてもらったり、自分の話を聞いてもらったりする喜びを感じることが大切。言葉の力の獲得にもつながる

⑦本に親しみましょう

- 本に親しむことを習慣にすることで豊かな感性が育まれる



出前講座感想

【保護者対象】



親の不安、焦りが子どもに伝わる。まず、大人が心を大きくもって子に安心を与えてやりたいです。早寝早起きを、特にもう一度心がけたいと思いました。

本読みやしりとり遊びなど日頃忘れがちな時間の過ごし方を教えていただき参考になりました。

もう少し入学までにつけたい力をつけるために家庭でできることを具体的に教えてほしい。声かけの仕方やテレビ等の時間のかわりに、ひとりでできることなど教えてほしい。

自分が育ってきた環境と何も変わりなく育てていたつもりでしたが、自分たちの疲れからとスマホを見せて自分たち優先の時間をつくり、子育てに不向きな形になっていたことを気付かされました。

仕事をしていると夜の就寝時間がおそくなってしまいます。9時までに寝かせられるようにするには、みんなどうしているのか聞いてみたいです。

【職員対象】



子ども達を育てる、保育する際に大切にしないといけないところがわかり勉強になりました。会話一つでもうわべだけの会話はないようにし、子ども達の気持ちを引き出せるようにしないといけないことがわかりました。

私は1歳児クラスを担当させていただいているのですが、声かけのときに「じょうずにできたね」「たのしかったよかったね」と終わらせてしまっていたのでこれから気を付けようと思いました。

小学校に行くにあたって大切な点などを細かく聞いて良かったです。子どもたちへの声かけももっと掘り出して聞こうなどと工夫することの大切さを知りました。

2. 市内全体の幼児教育野質を向上させるために「研修を支援する仕組み」を整備する

(1) 幼児教育アドバイザー派遣

①取組の概要

経験豊かな退職園長を再任用非常勤職員として1名採用。

主な活動内容としては、「幼児教育サブアドバイザーの育成」「園内研修会のコーディネート」「就学支援ノートわくわくスタート堺っ子出前講座」「幼児教育界スタンダードカリキュラムの改編」に関わる施設巡回相談・指導や、研修会・会議の開催等を行った。

幼児教育アドバイザー自身の研鑽と、サブアドバイザーへの伝達研修のため、研修を受講。

②実施日時と活動内容

派遣内容	巡回指導・ 訪問等回数	備考 (詳細は、各項目に記載)
幼児教育界スタンダードカリキュラムの改編のための会議出席	4回	項目：Ⅱ 1-(1) P13~
「就学支援ノート~わくわくスタート堺っ子~」出前講座	16回	項目：Ⅱ 1-(3) P17~
研修コーディネート(拡大園内研修会)	6回	項目：Ⅱ 2-(2) P23~
サブアドバイザーの育成	27回	項目：Ⅱ 2-(3) P29~
保幼小合同研修会等	4回	項目：Ⅱ 2-(4) P43~
その他(幼稚園・小学校等訪問)	11回	研究授業など

※実施日時と活動内容の詳細については、各項目に記載。



(2) 研修コーディネート

①取組の概要

市立幼稚園を会場とした拡大園内研修会を実施。外部講師を招致し、近隣の幼児教育施設の保育士等の参加を呼びかけ、合同で研修を行う。研修に参加しやすい仕組みづくりとして、午睡時間に設定すること、近隣の会場で開催することに留意して実施した。

②実施日時

	日時	テーマ・内容	講師	参加施設
1	6月13日 (月)	模擬保育(絵画) 「スクラッチ技法を用いた表現活動」(於:三国丘幼稚園)	大阪大谷大学 非常勤講師 岩田良子先生	市立北八下幼稚園 (7人参加)
2	7月11日 (月)	模擬保育(絵画) 「体験を描く表現活動」 (於:三国丘幼稚園)	大阪大谷大学 非常勤講師 岩田良子先生	市立東陶器幼稚園 市立北八下幼稚園 市立白鷺幼稚園 市立第一幼稚園 市立みはら大地幼稚園 (9人参加)
3	8月4日 (木)	「インクルーシブ教育について学ぶ ～支援を要する子どもがともに楽しく過ごすために～」 (於:東陶器幼稚園)	大阪府立大学 非常勤講師 秋元壽江先生	市立東陶器幼稚園 西陶器こども園 市立東陶器保育所 (20人参加)
4	8月25日 (木)	「配慮を要する子どもへの個別の支援の方法 ～ユニバーサルデザインの視点から～」 (於:みはら大地幼稚園)	大阪府立大学 非常勤講師 秋元壽江先生	くろやま保育園 市立みはら大地幼稚園 市立美原きた保育所 市立美原ひがし保育所 市立美原にし保育所 (30人参加)
5	10月24日 (月)	模擬保育(絵画) 「体験を描く表現活動」 (於:三国丘幼稚園)	大阪大谷大学 非常勤講師 岩田良子先生	堺東保育園 市立登美丘幼稚園 市立東陶器幼稚園 市立北八下幼稚園 市立認定こども園百舌鳥幼稚園(10人参加)
6	11月28日 (月)	「制作物、絵画から子どもの思いを読み取る ～講評から学ぶ～」 (於:三国丘幼稚園)	大阪大谷大学 非常勤講師 岩田良子先生	堺東保育園 市立東陶器幼稚園 (7人参加)

③拡大園内研修会の様子

【6月13日（月）】 三国丘幼稚園

「スクラッチ技法を用いた表現活動 ～模擬保育から学ぶ～」

講師：大阪大谷大学非常勤講師 岩田良子先生



飛行機から見たお花畑や草原・川などの話をしながらその風景をクレパスで表した作品を幼児に見せる。保育者が「ゆっくり・ゆっくり・ていねいに」と口ずさむと 幼児も口ずさむようになる。 **繰り返す**



色を塗る線を自分で描く。 **幼児が選択する**
難しいと思う幼児には線の描かれている紙を用意しておく
実態から線の描かれた紙を選ぶ幼児が多いことを予想して、紙のあるところにスタンバイし、「自分で描くともっと楽しくなるよ」と声をかける。
すると白い紙を選ぶ幼児が増えた。



「天気が悪くなり黒い雲が出てきた」と、黒色を上から塗る。
「みんなで花火を上げよう」と、竹串や・割りばし・爪楊枝で花火を描く。

まねるは学び

研修会

○担任の反省（感想）

○他園の先生の意見

○自園の先生の意見

○講師先生の講義

①子どもの生活を見て感じたこと

②今日の保育のねらい

③絵を描く活動について

【7月11日（月）】 三国丘幼稚園

「体験を描く表現活動 ～模擬保育から学ぶ～」

講師：大阪大谷大学非常勤講師 岩田良子先生

※サブアドバイザーの活動に記載

【8月4日（木）】 東陶器幼稚園

「インクルーシブ教育について学ぶ ～支援を要する子どもがともに楽しく過ごすために～」

講師：大阪府立大学非常勤講師 秋元寿江先生

※近隣のこども園から2名、公立保育所から9人の参加があり、東陶器幼稚園で講師の先生からインクルーシブ教育について研修を受けた。

※平成28年4月に施行された「障害者差別解消法」に触れて、合理的配慮について学んだ。インクルーシブ教育に必要な7つの視点については、一つずつ具体例に触れながら学び、保育者のあり方、環境の構造化など幼稚園・保育園でできる援助について理解を深めることができた。途中ビデオを見ることで、保育者の関わりなど具体的に知ることができた。

研修内容 ～講義、ビデオ視聴～

- ①保育におけるユニバーサルデザイン
インクルーシブ教育とは
集団の中で「個」が生きる保育
- ②配慮を要する子どもへの具体的な支援
- ③保護者理解と支援について



参加者の感想

- 個別支援の方法やユニバーサルデザインの視点など、自分自身のクラスの課題でもあるのでとても良かった。
- とてもわかりやすい研修で子どもの視線に立った保育のあり方を聞き、今後の保育に活かしていきたい。
- 配慮の必要な子どもが多くなってきているなかで、集団の中で集団の力も用いて取り組む方法を知ることができた。
- 子どもの視点に立つことを具体的に示して頂きわかりやすかった。

【8月25日（木）】 みはら大地幼稚園

「配慮を要する子どもへの個別の支援の方法 ～ユニバーサルデザインの視点から～」

講師：大阪府立大学非常勤講師 秋元壽江先生

※美原区内の公立保育所3所と民間保育園から11人参加し、配慮を要する子どもへの支援について学習した。

※研修テーマに沿った講義の中では、個別の支援方法について学ぶために、実際の子どもの変容をVTRで視聴した。VTRの一つは、本園が幼稚園早期支援派遣事業において、専門家からの指導を受けて改善（環境構成や担任のかかわり方の工夫など）したことで、子どもやクラスの様子が変化していった様子をVTRに収めてきたものであった。実際の子どもやクラスの様子を担当から聞くだけでなく、子ども達が変わっていった様子をVTRで確認できたことで、研修全体の内容をより具体的に理解することができた。



研修内容 ～講義とグループ討議～

①インクルーシブ保育とは？

ユニバーサルデザインによる保育
集団の中で「個」に注目したかかわり
（集団での配慮 VTR から）

②配慮を要する子どもへの個別の支援
（ことばかけを中心に）



参加者の感想

- ・3歳・4歳・5歳児そして障害の有無にかかわらず、「わかる」ということが子どもにとって大きな力になるということが学べた。
- ・環境を整えていくことで、子どもが過ごしやすく、できることが増え、自信が持てるようになるということが分かった。
- ・保育のビデオを見ることで具体的な援助の仕方を知ることができた。
- ・実際の保育の様子をビデオでみて、共感する部分があり、自分自身と重ねながら課題や支援について考えることができた。
- ・今回のように、実際の保育の様子を含めた研修・講義があればとても嬉しい。

【10月24日(月)】三国丘幼稚園

「柿を描こう 5歳児 絵画指導」

講師 大阪大谷大学非常勤講師

岩田良子先生



「柿はどこにできるかな？」
「枝にくっついているね。」
「柿の実の後ろには何がついている
と思う？」
「柿にはへたがあるのよ」

- ・ 実りの秋おいしい柿を目の前に子どもたちは先生の話に関心を寄せて聞き入っていた。
- ・ 柿を描くということは子どもたちもわかっている。柿のどこに意識をさせたいのか教師は意識をもって子どもに話しかけておくが大事である。
- ・ 枝についた柿やへたなどの様子に気付かせると、子どもたちも柿に興味をもち始めた。「へた」を意識しながら、枝に柿の実を描こうとしていた。

C「柿の実にお水が行くように枝や太くした」
T「最後に小鳥やムシが柿の木にやってきたよ」



「枝に柿がついてる」
実際に見本を子どもに描いてもらう。
全体に広げる。

「小鳥が飛んできて柿を食べようとして
いるね。」
「大きな柿がいっぱいあるよ。」

<参加者より>

- ・ 一人ひとりが自分なりのお話やイメージを膨らませながら、表現を楽しむ姿があった。
- ・ 友だちの絵をみんなで見ながら、がんばっているところなど話す場面では、細かい友達の描き直しを見つけていた。



【11月28日（月）】三国丘幼稚園

「4歳児 絵画作品と5歳児 自然物の作品を見て意見交流と講和」

講師 大阪大谷大学非常勤講師 岩田良子先生

4歳児 絵画作品を通して意見交流

○ドングリ・ライオンを絵具・筆で描く事前の保育活動について

イメージをもって描くために、ごっこ遊びなど、
絵を描く前に保育にとり入れるのは、適切であるか。

- お話の絵のイメージのもたせ方については、誰かがイメージの火付けとなる。

興味をもたせる視点を教師はもっていないといけない。
何をどのように描いてほしいのか。

幅を広げる・続くように、心が伝わるようなテクニック
が求められる。

- ライオンのたてがみは、写真など3枚見せた。
- 「ゆっくり・ゆっくり・丁寧に」という繰り返し言葉を伝えていることで、子どもたちも意識して描いていた。



5歳児 自然物制作を通して意見交流

○秋の自然物を使って

- 土台の紙の大きさ・紙の形の準備は適切であったか。
- 色を塗るにも条件をだし、「似合う色を選んで」という言葉を与える。
- 色々な自然物が豊富にあり、その材料を子どもたちは適切に使い、そのままでなくドングリに顔を描いたり、帽子をつけたりするなど工夫があった。



(3) 幼児教育サブアドバイザーの育成

①取組の概要

公立幼稚園・こども園より各1名推薦された中堅教員を「幼児教育サブアドバイザー」とし、さまざまな機会を通じて、幼児教育アドバイザーが指導し、育成してきた。

【研修会への参加・サブアドバイザー会議等】

幼児教育に関する専門的知見の向上のため、積極的に研修会に参加。サブアドバイザー会議では、幼児教育アドバイザーが受講した研修について伝達研修を実施。

【他園の研究保育参加】

効果的な教員への指導、助言について学ぶため、他園の研究保育に参加させ、同行する幼児教育アドバイザーから教員への指導や助言について実践的に学ぶ。

【巡回訪問指導】

運動会、お店屋さんごっこ、生活発表会のいずれかをサブアドバイザーが選び、一定の期間をかけて取り組む教育について学んだ。幼児教育アドバイザーが、該当するサブアドバイザーの園を集中的に巡回し、指導した。巡回日には、他園のサブアドバイザーの参加も可としたが、各園の行事等の都合により参加者数は少数にとどまった。

【幼児教育施設との交流】

区別事例検討会（市長部局開催、区内公民保育所等の参加）に参加し、区内の幼児教育施設との情報交換するなど、連携体制の推進につなげる。

②実施日時

【サブアドバイザー会議】

	実施日	内 容
1	6月8日	事業・研修の目的・意図の概要について
2	7月6日	「幼児教育の中の学び」について（持ち寄り資料）
3	10月26日	小学校への接続カリキュラム伝達講習
4	3月1日	スタンダードカリキュラムについて

【他園の研究保育参加】

	実施日	内 容
1	6月23日	津久野幼稚園 4歳児 「水辺の生き物になって遊ぼう」
2	6月29日	三国丘幼稚園 5歳児 「笹飾りをつくろう」（創作貝殻飾り）
3	7月11日	三国丘幼稚園 5歳児「プールで泳いでいる自分を描こう」 ～模擬保育 講師 岩田良子先生 ～
4	10月24日	東陶器幼稚園 4歳児 「たんぼぼ組のムシのくに」
5	11月29日	登美丘東幼稚園 4歳児「世界に一つのクリスマスツリーをつくろう」

【巡回訪問指導】

	実施日	内 容	幼稚園名
1	9月23日	運動会の取組	津久野幼稚園
2	9月26日・9月28日	運動会の取組	みはら大地幼稚園
3	11月 2日・11月14日	つくって遊ぼうの取組	北八下幼稚園
4	11月 7日・11月15日	つくって遊ぼうの取組	白鷺幼稚園
5	11月10日・11月16日	つくって遊ぼうの取組	東陶器幼稚園
6	1月23日・2月 3日	生活発表会の取組	認定こども園百舌鳥
7	1月24日・2月 7日	生活発表会の取組	登美丘東幼稚園
8	1月30日・2月 8日	生活発表会の取組	第一幼稚園
9	1月31日・2月 6日	生活発表会の取組	三国丘幼稚園
10	2月17日・2月20日	生活発表会の取組	北八下幼稚園

【幼児教育施設との交流 ～区別事例検討会への参加～】

	実施日	内 容
1	8月22日	「リスクの高い家庭支援」助言者 堺市子ども相談所 石子茉実氏
2	8月31日	「子どもの育ちと保護者支援」助言者 子ども育成課 有働仁美氏

③取組の様子

【他園の研究保育参加】

6月23日(木) 津久野幼稚園 4歳児 「水辺の生き物になって遊ぼう」

参加者： 原・村田・竹村・中島・船築・関藤 日田・清水・澤・藤澤

○ねらい

- ・友達と一緒に川や海など水辺に住む生き物をイメージし、暮らししたり、遊んだりする場をつくる楽しさを味わう
- ・友達と一緒に水辺の世界で好きな遊びを見つけ、自分の思いを出して遊ぶことを楽しむ

○遊びの概要

- ・子どもたちは自分が水辺に住むなりたい生き物になり、家をつくったり、友達と踊りを楽しんだりしている。なりたい生き物同士関わったり、自分で遊びを見つけたりして遊んでいる

1.豊かな環境

- ・子どもたち一人ひとりが意欲的に遊びたくなるような援助が行われている。(保育活動に保育者の意図が反映されていた。)
- ・魚釣りの場所の横にBBQができる遊びがあるなど幼児は遊びの中で連続性をもって遊ぶことができるよう場の構成がされていた。



遊びの連続



2.子どもの主体性 ー自由と参加

- ・子どもたちが、遊具や材料、活動(遊び)を自分で選び、主体的に取り組めるように工夫されていた。

3.支援の方法ー保育者の感性と関わり

○子どもたちは、自分の発見したことを発表したり、思いを言葉でつたえようとしたりするが、未熟なため相手に伝わらない言葉などがあつた。保育者は子どもの思いをくみ取り、補足し正しい言葉で話していた。



○支援の必要な幼児に対しては得意なことや興味のある内容を遊びにとりこんでいた。

- ・マットとリングを組み合わせたお家をつくることで、一人でゆらゆらゆれる心地よさがあつた安定できる場所でもあつた。

4.クラスの雰囲気ー集団内の心地よさ

- ・保育者は子どもたちの意見を取り入れ、子どもとともに作りだす遊びを計画していた。

<考察>

- ・展開の主活動「遊びの場をつくったり遊んだりする」30分あつたが、幼児の活動に停滞が見られた。
- ・魚釣りの場は釣る(魚釣り竿)・BBQは(トング)で魚をひっくり返す。遊びの中に幼児が使える道具がある
- ・アリエルは踊る・ハリセンボンの家は幼児に目当てがなく同じ繰り返しであつた。保育者は各遊びの場を回ってはいるが、幼児と次への楽しみを一緒に見つけ出していく支援が必要ではないだろうか。
- ・車には道路をつくるビニールテープが用意されていた。道路という思いをもっている幼児と、ビニールテープを張る行為を楽しむだけの幼児がいた。同じ活動はしているが、友達とのつながりがないようであつた。

6月29日（水）三国丘幼稚園 5歳児 「笹飾り（創作貝殻飾り）」

参加者 日田・清水・中山・木村・作田・星川・澤・藤澤

○ねらい

自分なりに工夫して作り上げる喜びを味わう

○笹飾りの概要

貝殻つなぎのイメージではあるが、材料は紙だけでなく、箱・紙の円柱・モールなどの準備しておき、笹飾りをつくる。

1.豊かな環境

- ・保育者が笹飾りをつくる計画を立てるにあたっては、子どもが示す興味・関心に応じて、内容や設定が再構成されていた。
- ・再構成という理解をどうとらえればいいのか、検討する必要があるのではないかと

2.子どもの主体性 ー自由と参加

- ・クラスが落ち着いているため、決まりや約束事がひとり一人の子どもがわかって行動できていた。



3.支援の方法ー保育者の感性と関わり

- ・子どもたちが活動を振り返る時間を保育者は設定していたが、発見したり話し合ったり、友達と関わったりする場面がない題材であった。
- ・保育者は子どもたちへ温かくかわわり、大事にしようとして心掛けていた。
- ・子どもたちは自分たちの思いをいろいろ試そうとしていた。

4.クラスの雰囲気ー集団内の心地よさ

- ・保育者が数人の幼児を取り上げて、出来上がった作品をみんなに見せるのではなく、4人のグループで制作をしていることを生かして、グループ単位で見せる・全員の出来上がった作品を飾ってみせるなどの配慮が必要であった。



<参加者より>

- ・この活動を題材として取り上げたことに無理がなかったか。活動からねらいができてはいないだろうか。ねらいがあって活動の展開を考える。笹飾りを工夫するというのは難しいのではないかと。
- ・笹飾りは決まったことではあるが、基本をしっかり押さえて取り組むほうが子どもたちにとってもわかりやすいと考える。
- ・のり・ホッチキス・セロハンテープなど子どもたちは安易に接着できるものを選ばず、紙と紙はのりを使うなど特性や今までの経験が身についている幼児の姿があった。
- ・立体になると、笹飾りよりも、自分の身につけるものをつくらうとしていた。



7月11日（火） 三国丘幼稚園 5歳児

「プールで泳いでいる自分を描こう ～絵具の絵画指導～」

模擬保育・講師 大阪大谷大学非常勤講師 岩田良子先生

<導入> (生活の話)

幼稚園に来て、4歳児がプールに入っていた時の様子や会話を5歳児に話す。子どもの日々の生活を話すことで、身近に感じられる人になり、子どもの心を開かせ、保育者が子どもの世界に入る。先生からの言葉かけが子どもに安心感をもたせることが大事である。

<絵本の視聴> およぐ

絵本の内容に犬かきなど出てきたときには子どもにも同じように動作をもとめる。描かせたいと思うポイントは絵本を見ながら強調をいれておく。
針金人形 針金は自由自在の動きを出せる。基本の動きを目で見えてわかるようにしている。

サブアドバイザーの学び →



導入時に子どもの気持ちに安心感と教師への信頼感をもつ大事さがわかる

- どう描き表わすかを子どもと一緒に腕の動きなどを考え、気付いた子どもにみんなの前で表す。
- 目・口などは描き表わさない。顔の中で先に目・口を先に筆を入れると後が描きづらくなる。



- 泳ぐ動きをどのように描き表わせればいいのか戸惑う子どももいる。知らない子どもには教えていくことが求められる。
- 絵具の濃さが大切である。
- 筆の出し方時間差の意味を知る。



自分の描いた絵が失敗した。思いと違う子どもに対してロケット泳ぎを描き表わしたかった。ロケット泳ぎの足は伸びている
自分の描いた足はカエル泳ぎの足である。
保育者は子どもが納得できるような言葉かけをする。

「心配しなくてもいいよ。水がくると足が隠れるのよ」「だから大丈夫」と説明をする。
子どもの作品に名前を描きながら、描き表わしたことをききとり言葉で残す。

・子どもの思いを読み取る



・失敗した子どもの気持ちを受け止めるが、失敗とするのではなく、次への見通しを子どもに与える



<考 察>

絵を描く人数や部屋の広さや準備の仕方、形態は考えればよい。すべてをこの時間内に絵具を使って描く活動は、保育者に柔軟性が必要である。作品に仕上げようという思いを強くさない。また先生の思いを子どもに押し付けないことが大事である。

○ねらい

- ・体験したことや、想像したことを描いたり作ったりして表現することを楽しむ
- ・自分の思いを出しながら遊ぶことを楽しむ

○遊びの概要

ムシたちが喜び環境をつくり、ムシになってごっこ遊びを楽しんでほしい。

指導者の状況

- ・担任外という立場であり、日々園内の子ども達とかかわりはあるものの、保育に直接かかわりをもてていない状況である。しかし子どもたちの生活面を通して、教師と子どもの信頼関係が築かれている。

1.豊かな環境

- ・本時の活動に必要な道具、材料をもうすこし考え、整えたほうがよかった。ムシのくにをテーマとするのは、4歳児にはイメージがもちにくかった。「ムシ」「くに」という言葉をどのように子どもが捉えているか。
- ・視覚支援 ・ ・ 絵などをみせる。



2.子どもの主体性 ー自由と参加

- ・ひとり一人が「何をしたい」という思いがみえてこなかった。約束事など理解も難しい子ども達もいるので、より分かりやすい伝え方が求められる。

3.支援の方法ー保育者の感性と関わり

- ・子どもの活動をみながら、子どもの思いを読み取り展開をしていこうとしていた。
- ・子どもの思いを言葉に置き換え、クラスの子も達に知らせる支援はよかった。
- ・子ども達は活動の場で、自分の思ったように動いていた。

4.クラスの雰囲気ー集団内の心地よさ

クラスは、友達を仲間外れにすることなく活動していた。集団としてのまとまりはまだないが、友達を意識し同じ遊びの場で生活する楽しさを味わっていた。

<参加者より>

- ・本時のねらいが ○遊びに必要なものをかんがえたり、作ったりすることを楽しむ。となっているが、展開の内容からねらいは ○遊びに必要なものを作ったり、作ったもので遊んだりする。とした方がよかった。
- ・子ども達が、自分のしたいことを見つけることができるよう選択肢を考える・作ると設けたことはよいと思うが、4歳児はすぐ新しいものに目が向くなどの発達の特徴を踏まえたうえで、展開を考えなくてはならない。今回はどちらかに決めることで、保育者も子どもに何を育てたいのかが明確になり、子ども達にとってもめあてがはっきり持つことができたのではないか。
- ・ムシの家をダンボールでつくっていたが、倒れる・切りにくいなど扱いが難しいようであった。このような時は、あらかじめ教師の手で倒れない子どもが入って遊べるスペースの基礎を築いておいてもよかった。

○ねらい

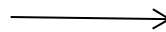
- ・リースの装飾を選び、自分なりに考えたり、工夫したりし、リース作りを楽しむ

○遊びの概要

- ・子どもたちの心が躍るクリスマスを題材として、秋の自然物を使った制作活動である。
 リースをつくるにあたって、自分で装飾物を選んだり、並べたり考えたりして取り組む

1.豊かな環境

- ・保育活動に保育者の意図が反映されていたが、準備物は自然物だけの方がよかった。
- ・木の実などは名前を表示するだけでなく、写真も提示し、どんなものなののかを視覚的に伝えることが大事である。



木の実の容器にカードや写真などをつけておく
 装飾物とする自然物の材料は豊富とはいえない。

2.子どもの主体性 —自由と参加

- ・クラスが落ち着いているため、決まりや約束事がひとり一人の子どもがわかって行動できていた。
- ・主体性…保育の内容が簡単ではなかったか。



3.支援の方法—保育者の感性と関わり

- ・保育者は子どもたちへ温かくかわり、大事にしようと心がけていた。
- ・戸惑うような保育でなかった。
- ・声のトーンも静かであり、子どもたちもよく話を聞いていた。

4.クラスの雰囲気—集団内の心地よさ

- ・保育者は子どもたちをよく知っており、子どもたちと一緒に活動している姿がよかった。
- ・友達を仲間外れにすることがなく、トラブルもなかった。
- ・配慮を要する子ども達にも無理のない内容であった。
- ・作品を見る時間はよかったが、鑑賞するには至らなかった。
- ・全体が見渡せるような方法はないだろうか。



<参加者より>

- 保育者の声が非常に穏やかであり、子どもたちもよく聞き入って、クラスが安定していた。
- 子どもたちはリースをつくる内容はよく理解し、取り組もうとしていた。
しかし創意・工夫ということをねらうのであれば、教師はどこでどのような工夫ができるのか 予測し、そのような場面をつくることがあってもいい。
- 装飾物の中に、組み合わせると形になるというようなものを用意しておくことも必要ではないか。（例えば、木の破片やスライスしたもの、厚みのあるもの、針葉樹、落葉樹の葉っぱなど）
- サンタさんからの手紙など、保育者の工夫はよくわかるが、子どもはあまりよくわかっていないようであった。
- 集会室で取り組むのもいいが、保育室の壁面飾りを利用し、「ここにリースを飾る」という意識を子どもたちもつことができたのではないかと考える。

○ねらい

- ・絵や言葉で生き生きとイメージを表現する。
- ・友達とお話を考え、イメージを共有する面白さを味わう

○カードゲームの概要

- ・自分の好きな絵カード（動物・果物・乗り物など）を1枚選ぶ（個）
- ・2人組になり、互いの選んだ絵カードを見せ合い、お話を考えていく
- ・画用紙4枚つなぎに、互いのイメージを共有し絵で表していく。（4コマのお話）



1.豊かな環境

- ・絵カードの内容を増やし、一覧に張り出すなど子どもに興味や期待感があった。
- ・カードを人物・情景などのカテゴリーで、提示してもよかったのではないかと感じた。

2.子どもの主体性 ー自由と参加

- ・子どもたちは、遊びを理解し、自分たちで考えて、主体的に参加していた。

3.支援の方法ー保育者の感性と関わり

- ・保育者は子ども達の活動の様子を見守りながら、2人組のそれぞれの思いや考えを聞き、次への課題となることを示していた。
- ・保育者は、子どもの考えた4コマのお話に気持ちの言葉（びっくり・わくわく・なかよし・うれしい・やったなど）が入っているか確かめるなど、本時の保育の目標に意識があった。



4.クラスの雰囲気ー集団内の心地よさ

- ・子どもたちは、2人組になれず1人になってしまった子どもに対して、仲間に呼び入れようとする姿が、クラス全体から伝わってきた。
- ・保育者の思いや考えを子どもたちは、読み取っていた。
- ・クラス全体が、友達の取り組みを盛り上げようとする雰囲気が感じられた。

<参加者より>

- ・子どもたちの活動に即した保育者の適切な助言を聞くことができた。
- ・子どもたちは振り返りの中で、保育者との約束を意識した発言があった。
（気持ちを表現する言葉を入れる）
- ・今後は、子ども達にもっと話の内容に広がりや、深まりが出てくるのではないかと感じた。



サブアドバイザー巡回訪問記録

園名	○内容及び子どもの様子 ★サブへのアドバイスなど ◎課題
津久野	<p>○雨が続いた週末であった。サブアドの担当である4歳児の保育「運動会ごっこ」をしよう。かけっこ・玉入れ・鬼ごっこ（しっぽとり）の活動であった。</p> <p>★子どもから運動会ごっこでやりたいことを聞き取りながら、本時の活動に移る。言葉が的確であり幼児には見通しがつきやすいようである。</p> <p>○4歳児2クラスではあるが、どちらのクラスにも全体に指示を出すと伝わりにくい子どもや、集団行動から外れる子どもが数人いる。</p> <p>★ルールや子どもの思いを子どものペースに合わせながら聞き取り、発表させるなど言葉も子どもの思いを補いながら伝達するような支援があった。</p> <p>◎子ども一人一人にわかるようにするために言葉数が増えてしまうのかもしれない。</p>
みはら大地	<p>○5歳児合同で表現演技「大地いきもの池のはなし」</p> <p>自分のなりたたいきものを選びシナリオ通り登場してくる。自分の出番をわかっている。</p> <p>★シナリオがあり教師の言葉に誘導され感がある。</p> <p>○生き物や登場物になって動いている。</p> <p>★運動的な要素をいれた決まった動きとされているので子どもたちにはわかりやすい。動きに感情がない。</p> <p>◎運動会でみせるための望ましい表現、演技や構成の仕方をどうしていくか</p>
みはら大地	<p>○「起」「承」「転」「結」の「転」の取り組み</p> <p>各クラスで考えた台風のところの演技を合わせ1つのイメージを子ども達が共有するのだが、各クラスで話し合ってきているので、まとまり感が難しいようであった。</p> <p>★台風の雲・風と一緒に動くため、一人一人もわかりにくい。</p> <p>子どもの思いや考えを引き出し、大事に取り組んでいるのはよくわかるが、ストーリーが創作だけに、見る側のことも考えに入れたほうがいい。</p> <p>◎3クラスを統括し話し合いをするのは難しいのか。ストーリーがあるので、子どもたちのイメージを同じ場で共有するほうがいいのではないか。</p>
北八下	<p>ばら組遊園地</p> <p>○人形劇 女児4名でまとまりがある。人形はトイレットペーパーの芯で頭の部分はプリンカップで帽子をつくってかぶせている。</p> <p>★帽子にリボンを使うなどの工夫があるが、人形は芯のみなので動きがない。紙袋を組み合わせて人形にすると手の動きが出る。</p> <p>○オシャレ 女児1名は「手鏡」をつくりたいという思いがしっかりあって、作り上げていたので本人には充実感があった。</p> <p>○お化けレストラン 集まっている子どもたちの中に、レストランとお化けの2つ思いがある。お化けは、やりたいという子どもは2名で2人ともイメージもない。どうしたいのかという思いが見えてこない。</p> <p>★お化けの2人には教師が課題を与えていく。</p> <p>○ゲーム スーパー なんとなく作っているが、工夫がみえない。</p>

	<p>◎材料は小物が多かったので大きな段ボールなども用意するよう伝えた。</p> <p>○作って遊ぼうに取り組む中でいろいろな行事が入っているので、子どもの気持ちが続かない。</p> <p>◎色紙を安易に使いすぎであるたこ焼きなどは新聞紙を使うなど適材適所の材料を用意していく。</p>
白鷺	<p>○5歳児2クラスを4コーナーにわけて、大泉公園に遠足に行った経験から、テーマを決めて遊びを作り上げている。</p> <p>○一人一人が自分のすることを見つけ遊んでいる。</p> <p>★教師は自分のコーナーに来た子どもたちの様子をしっかりと把握し、かかわっている。</p>
東陶器	<p>○4歳児・5歳児の合同で、コーナーを選んで「作って遊ぼう」の取組サブアドバイザーも迷路のコーナーを担当している。</p> <p>◎ダンボールを立てて迷路を作っているためよく倒れている。トンネルにしたいという子どもの思いを受け止めながら子どもの考えを聞き出していた。</p> <p>「ダンボールが倒れないように支えの箱を立てる」などの意見が出た。</p> <p>その意見通りすぐを実施し試していた。</p> <p>★倒れない工夫や補強を考えるように助言する。</p> <p>★4歳クラス担任が受け持つコーナーの環境が気になったので、そのコーナーに入り保育の様子や制作物のアイデアを指導する</p> <p>★保育室の材料や用具の置き方にもうすこし心配りがほしい。</p>
北八下	<p>○それぞれのコーナーで本時の活動の確認をする</p> <p>○お化けは3人前からの子ども達であるが、イメージが乏しくコーナーのメンバーでは進まないため、応援の子ども達を募っていた。</p> <p>○コーナーの半分を閉め、お客になって遊ぶ。客になっている子どもがとても素直で、お化けをみて本当に驚いたりする姿が見られた。</p> <p>○子どもの発言が多く、長い話し合いも飽きることなく、考えようとする姿勢が感じられた。</p> <p>◎役割分担などを決めて、自分の店の仕事にあった言葉を使うなど、より遊びが楽しめるような支援をしていく</p>
白鷺	<p>○4歳児・5歳児の交流</p> <p>どのコーナーも工夫があり、子ども達の思いが実現できていた。</p> <p>大がかりなものもあり、楽しめる遊びが満載である。迷路もじゃんけん・クイズ等途中にあり、遊びを入れているので、係りの仕事ができている。</p> <p>★教師の創意・工夫がある</p>
東陶器	<p>○子どもから意見は出るが、その場にいる子どもたちがそのことに対して共有することが難しい。</p> <p>★作っているものに工夫・丁寧さが感じられない（みかん・柿）など特徴を出すのは、教師の支援であることを伝える。</p> <p>○家庭で身につかなければならないことが、できていない状況の様子が見られた。</p> <p>★子どもの意見も聞きながら、基本的な手先の作業は全体で同じ経験を積み重ねていくようにする。教えることも大事である。</p>

	<p>◎4歳児・5歳児をわけて「つくって遊ぼう」に取り組むほうが、発達課題もわかりやすい。4歳の時に基礎を身につけることが大事である。</p>
百舌鳥	<p>○お話の内容は子どもたちと一緒に考え、子どもの思いに寄りそっている。 ★まだ取り掛かりの時期で先生がストーリーを十分構成しきれていない。 先生も一緒に活動に加わりながら話をつくっていくことが望ましい。 ○子どもたちは言葉少なく、先生の指示を待っている。そのため動きがなく、ただ同じ繰り返しで流れに沿って動いている。 ★子どもにメリハリをつける言葉や助言を入れるようにする。 ★子どもと一緒に自分も劇に入っていく。 ★音楽効果の工夫をする。</p>
登美丘東	<p>○29名の子どもを集約して話を聞かせるのが難しい様子であった。 話し合いが長くなれば子どもの集中がもたない。 ★なりたい役の子どもを離して座らせるよう助言する。 ★それぞれの役の子ども達自分の出番だけでなく、友達の動きを見ながら、お話作りをしていく。 ★動きも何人も一緒にするのではなく、各パートとして動く方が子どもたちのまとまりやすい。</p>
第一	<p>○4歳児「どうぞのいす」いろいろな動物になって遊ぶ。 ★りす・くま・ゴリラ・うさぎ・ライオン・ワニなどみんな同じ曲であるため表現が難しい。 ○動物たちが一緒にしたい遊びを決めて遊ぶ。(仲良し椅子取りゲーム・サッカー) ★遊びを考えてするのはいいが、教師は子ども達から言葉を引き出すところがない。 ★「どうぞのいす」は繰り返して簡単な言葉で終わるので考えていく。</p>
三国丘	<p>○4歳児 なりたい動物になってお話をつくりながら遊びを進める。 自分の役や出番がわかりみんなで声を出して動いていた。 後半の話はまだできていないが、クラスとしてまとまりがある。 ★一人ひとりの動きなので、集団の動きを入れてみてはどうか</p>
百舌鳥	<p>○5歳児 話の流れはできている。なりたい役にはなっていないが、その子が考えた言葉のセリフでなく、みんなで決めたセリフを分担して役になっているため、言葉がスムーズに出てこない。 役になりきることができず、その子らしさが見えてこない。 ★役を決めるに当たっては、その子の持ち味ができるように配慮していくことが大事である。 ★セリフは子どもが発した子どもを取り上げながら、わかりやすい繰り返しにしていく。</p>
三国丘	<p>○5歳児 創作話であるため、ストーリーが初めて見る者にはわかりづらいものがある。言葉の掛け合いだけでは、話が分からない。 役としてのセリフが決まっているため、言葉がスムーズに出てこない。 一人で話すことが苦手な子どもがメインになってしまっていることが残念である。 ★役の出番の順番などを配慮し、自信をもってできるようにしていく。</p>

登 美 丘 東	<p>○4歳児 役の中で順番に一言ずつ自分の言葉でセリフとして話す。子どもたちも簡単に自分の考えた言葉で言えるため会話がスムーズであった。</p> <p>役の仲間同士での展開がありわかりやすい。</p> <p>後半の盛り上がりには欠ける。</p> <p>★王子と魔法使い・蛇を戦いも入れ、あっさりと終わるようにする</p> <p>★王子（7人）白雪姫（4人）が同じように登場しているのが、なにか違和感を感じる。</p>
第 一	<p>○「どうぞのいす」登場人物が出てきて一緒に遊ぶ繰り返しである。</p> <p>★セリフを整理し、一人一人が自分の出番を意識させるようにする。</p> <p>○ストーリーは全員わかっている。自分が言わなければという思いがない。</p> <p>★どうぞのいすに座って自分はどんな感じがしたのかを一人ずつ考えた言葉で発するようになる。</p> <p>○最後の話がまとまっていない。</p> <p>★みんなで料理をして食べる(カレーライス)子どもたちを丸く座り鍋に見立てる。</p> <p>そのあと歌を歌う時には体形に変化をつけるよう助言する。</p>
北 八 下	<p>○創作話「みんなの八下村」</p> <p>昔の八下の生活を子どもたちとお話づくりをして劇をつくろうとしている。</p> <p>ストーリーも全員がわかって役や出番、セリフもできている。</p> <p>★セリフがあってそれを役になった子どもが話す。というのはセリフ（言葉）自分のものになっていないのかスムーズに出てこない。役の出番にあった自分の言葉を考えさせた方が自然な言葉になると助言する。</p>
北 八 下	<p>○スムーズに劇は進行していた。劇遊び当日の歌を聞かせてもらった。</p> <p>★大きな声で歌えばいいという思いで、子どもたちはどなり声で歌っていた。そこで、「今の歌声はどうだったか」子どもたちに聞くと「どなってた」と感想を言う。</p> <p>「きれいな声ってどんな声?」「どならない」「やさしいこえ」で歌う。</p> <p>歌も好き勝手に歌うのではなく、自分の声の出し方にもきづかせることが大事である。</p>

(4) 保幼小合同研修会の開催

①取組の概要

幼児教育に関する研修会を開催し、保育所・こども園・幼稚園・小学校の教員等を対象とした研修会を実施、交流の場となった。また、幼稚園担当指導主事会議で得た情報を、市内の全幼児教育施設（公民・幼保こ）に発信した。

②実施日時・園名等

	実施日	テーマ	講師	参加者
1	8月2日	校種間連携のあり方について	堺市立三原台中学校 教諭 木田哲生先生	179人
2	8月22日	幼児教育に関する国の動向についての説明会（1回目）	堺市教育委員会事務局 学校教育部 学校指導課 総括指導主事 澤ひとみ	58人
3	8月26日	幼児教育に関する国の動向についての説明会（2回目）		41人
4	10月27日	幼児期における支援教育	梅花女子大学大学院 教授 伊丹昌一先生	114人

③研修会の様子

【8月2日（火）】 於：教育センター

「校種間連携のあり方について」 講師：堺市立三原台中学校教諭 木田哲生先生

校種間連携のあり方について、堺市南区三原台校区・高倉台校区の長年にわたる経過報告を受け、連携がなぜ必要なのか、連携に必要なことは何なのかを学んだ。小中連携から保幼小連携そして保幼小中高連携へ発展してきた実践の様子を知ることができた。グループ討議では、近隣の保幼小中などの職員が顔見知りになり繋がっていくことや、連携の第一歩となることを期待し、地域ごとに座席を指定した。

睡眠教育への取組についても、乳児から成人まで見通した課題として報告があった。 ↓



【8月22日（月）・26日（金）】 於：堺市産業振興センター

「幼児教育に関する国の動向についての説明会」

説明者：市教育委員会事務局 総括指導主事 澤ひとみ

市内の幼児教育の質を維持向上させていくため、幼児教育に関する国の動向等についての情報を提供し、幼稚園・認定こども園・保育所（園）等が共有し、相互理解を図る。

内容は下記の通り。

1. 幼児教育施設を取り巻く環境の変化等
2. 幼児教育関係予算等
3. 幼稚園教育要領の改訂について

※市内全区を概ね区ごとに2回に分け実施した。各施設が参加しやすいように機会を増やした。

【10月27日（木）】 於：堺市総合福祉会館

「幼児期の支援教育について」

講師：梅花女子大学教授 伊丹昌一先生

幼児期の支援教育について

発達障害についての基礎的知識の確認と支援の実際を具体的な事例を映像とともに紹介。幼稚園における支援教育をすすめるため、教室の物理的環境を整えること、保育環境を整えること、ユニバーサルデザインの保育などについて学んだ。また教員の役割についてもわかりやすくまとめられ、子どもたちの笑顔の為に明日からも頑張ろうという気持ちももてた。

支援教育とは

障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点
幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、生活や学習の困難を改善
または克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである



- 子どもの気になる行動
- 支援を必要とする子ども
- 早期の気づきの大切さ
- ことばに注目
- 幼児期の指導のポイント
- 幼児の育ちを支える基本
など

- 発達障害について
- 特性
(LD・ADHD・ASD)
- 発達障害と虐待
- RADの行動特徴

- 支援の実際
- 子どもの情報の整理
- 支援教育をすすめるために
- 物的環境・保育環境を整える
- ユニバーサルデザインの保育
- 教員の役割

(5) 発達障害児等巡回相談指導の実施

①取組の概要

配慮の必要な園児への指導について、担当指導主事または幼児教育アドバイザーが専門家とともに巡回し教員への助言を行った。対象は、市立幼稚園・市立こども園・私立幼稚園。市立保育所・民間こども園等については、市長部局が巡回指導を実施している。

②実施日時・園名等

【市立幼稚園】

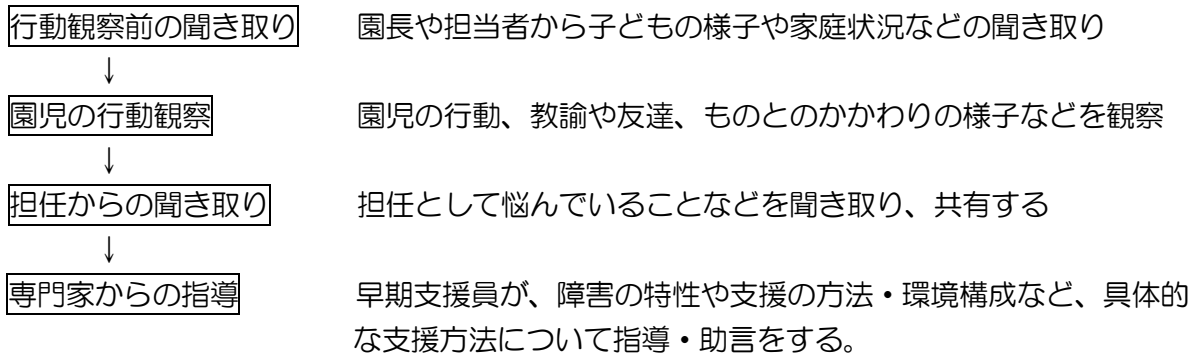
巡回訪問回数 27回 実施園 8園

【私立幼稚園】

巡回訪問回数 66回 実施園 22園

③巡回相談の様子

【巡回相談の流れ】



(6) 近隣地方公共団体に向けた広報活動

①取組の概要

幼児教育アドバイザーを活用した幼児教育の推進体制構築事業に係る1年間の取組等について報告し、参加者からの意見やアドバイス等をいただき、次年度以降の計画に活かす。

②実施日時

- 大阪府教育委員会事務局と連携し、府内幼稚園担当指導主事会議（平成29年2月13日実施予定）において、取組の紹介をする。
- 大阪府教育委員会事務局委託事業担当者との情報交換を行っている。

Ⅲ 成果と課題

1. 1年目の成果と課題

- 幼児教育アドバイザーが直接民間園、公立保育所に助言することは困難なため、連携の入り口として「出前講座」という形で接点をもつようにしてきた。民間こども園からの希望は多かったが、私立幼稚園からは1園のみであった。私立幼稚園との連携は大きな課題である。周知方法の工夫など対策を講じていきたい。
- 幼児教育サブアドバイザーの育成については、各園の状況により参加回数に差が生じた。少人数組織のため、他園の研究保育や研修会への参加が困難であった。
- 公立幼稚園のミドルリーダー級の教諭を、幼児教育サブアドバイザーとして育成することを計画したが、各園とも職員数が少ないため、運営上当該教諭にとっても、園にとっても研修等の負担が大きいと数園から声があがった。公立幼稚園の教諭を幼児教育サブアドバイザーとして育成するという点については方向転換が必要であると考えている。
- 「幼児教育界スタンダードカリキュラム」の改訂にあたっては、私立幼稚園、民間こども園からそれぞれから懇話会委員として参加を要請し、ワーキンググループは、幼児教育サブアドバイザーと市長部局の保育担当参事と進める予定であったが、民間施設団体と公立保育所からも主任級の教諭等をワーキンググループメンバーとして推薦してもらえることになった。作成段階から全種の幼児教育施設教諭等がかかわる体制ができたことは、公民種別の違いを超えた連携を進めるための推進力になると考えている。しかし、調整に時間を要したことは反省点である。
- 幼児教育センターの設置または、幼児教育支援室（H21 開室、H24 末機構改革により閉室）の再設置について検討する場を設定することが必要である。

2. 課題を踏まえた改善点と次年度の計画

（1）平成28年度における課題を踏まえた改善点

幼児教育アドバイザーを活用する仕組みについて見直すことにした。私立幼稚園への働きかけの困難さ、公立園での育成の困難さを踏まえ、本市の現状に応じた育成と活用のあり方について検討している。私立幼稚園の所管が府教育庁にあることから、府教委との連携、私立幼稚園団体との連携を強化することで、育成と活用の仕組みを構築したいと考えている。その一つとして『幼児教育アドバイザー等連絡会議（仮称）』の企画を進めていく。

(2) 平成29年度の計画 ～市内幼児教育施設との連携・協働の土台づくり～

■スタンダードカリキュラムの改訂・配付

- ・スタンダードカリキュラムの基本になるものとして、「新幼稚園教育要領の普及と啓発のための研修会（全5回）」を開催する。

	開催日	内容（仮題）	講師
1	5月20日	新幼稚園教育要領について～改訂のポイントとこれからの幼児教育～	文部科学省 調査官
2	8月7日	保幼小接続 ～スタートカリキュラムの作成と活用～	広島大学大学院 朝倉 淳 教授
3	8月17日	今日の遊びを明日につなぐ幼児教育	東京大学大学院 秋田 喜代美 教授
4	11月2日	『非認知能力』の重要性と それを育む援助	千葉大学 砂上 史子 准教授
5	2月23日	幼児教育の質を向上させるための評価の あり方について	同志社女子大学 埋橋 玲子 教授

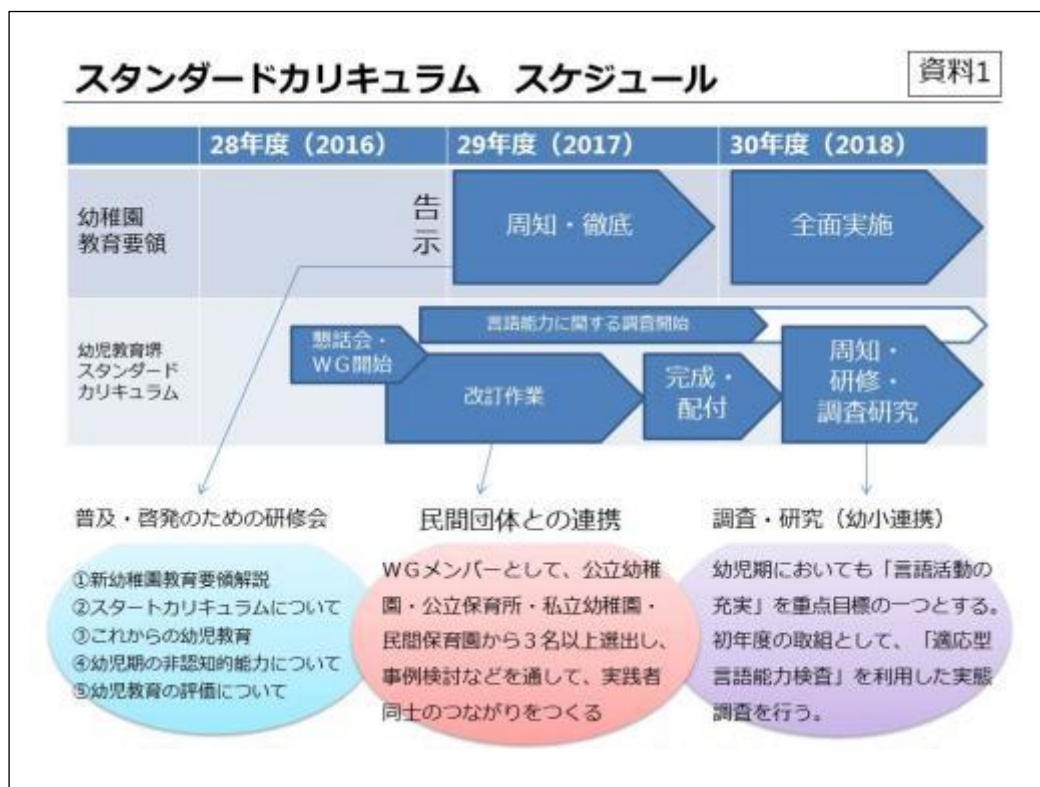
- ・公私幼児教育施設の教諭等のワーキンググループへの参画
- ・協力園の5歳児を対象に幼児期の言語能力の実態調査を実施。追加

■幼児教育アドバイザー派遣の充実（対象園種の拡大）

- ・『幼児教育アドバイザー等連絡会議（仮称）』の設置に向けた準備作業。追加

■研修を支援する仕組みのモデル実施

- ・専門家の派遣等 ・拡大園内研修会の充実 ・研修用DVDの貸出及び幼児教育アドバイザー、指導主事等の派遣



幼児教育アドバイザーの確保と活用（案）

